

広報 すぎなみ

Suginami

私たちの住む町を、
もっといい町に。

住宅都市として発展してきた杉並区。
住みやすい町をもっと住みやすくする
ために、知恵を出し合い活動する人た
ちが地域区民センター協議会委員の皆
さんです。年齢も経歴も多様なボラン
ティアの委員ですが、「よりよい町
に」という思いは同じ。今回は荻窪・
檜枝さん、阿佐谷・早田さん、永福和
泉・前田さんの3名に、地域活動の魅
力を語り合っていました。



支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

{ 12/15 }
令和2年(2020年)
No.2292

特集



すぎなみピト

地域区民センター 協議会委員



Contents — 主な記事 —

6 | 年末年始の区の業務案内 7 | 2年度上半期 区の財政状況をお知らせします 16 | 令和2年を振り返る 杉並区的主要出来事

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課



お知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、本紙掲載の催し等が中止になる場合があります。

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

仲間と支え合いながらまちづくりに貢献できる、とても楽しい活動です。

— 皆さんが委員になった背景やきっかけを教えてください。

檜枝：生まれも育ちも荻窪で、以前は大学の教員をしていました。65歳で退職した後、地域の子どもの役に立つことを何かしたいと思っていたところ、西田小学校のOB会で出会った当時の会長に「やってみないか」と声を掛けられたのがきっかけです。

早田：私は子育て中にPTA活動を通して地域に関わってきました。その後、荻窪地区の協議会に誘われ、その活動がとても楽しかったため、転居した阿佐谷地区でも参加して今に至ります。

前田：私は誘われたのではなく、永福町駅に貼ってあった委員募集のポスターを見て自分で応募しました！

檜枝：20代前半で委員というのは前代未聞じゃないかな。どんな思いがあったのか興味深いです。

前田：大学でたまたま「まちづくり」関係の分野を学び始めたのがきっかけです。最初はさほど興味がなかったのですが、フィールドワークをする中で、地域の課題やそこに暮らす人々と向き合うことに面白さを感じ、自分の住む場所でも活動してみたいと考えました。今は、委員の活動をしながら、専門学校で社会福祉の勉強もしています。

— 協議会ではどのような活動をしていますか？

檜枝：協議会が果たすべき役割は、イベント等を通して組織と個人をつなげ、地域の交流を図り、よりよいコミュニティを作っていくこと。地区ごとにさまざまなお祭りや講座などを開催しています。でも今年はコロナの影響もあり、例年通りにはいかないことも多かったですね。

早田：現在の状況で数カ月先のスケジュールを考えていく必要があるので、判断が難しい面もありましたね。でもそんな状況だったからこそ、今年はずっと以上に丁寧に、深く地域の団体と関わることができたとも感じます。

檜枝：私たちも「やる・やらない」の議論ではなく、「やれる範囲で何ができるか考える」という前向きな姿勢で知恵を出し合いました。

前田：私はコロナ禍で学校がオンラインでの授業になり、友達に会えない中で、協議会の活動が心の支えになっていましたよ。

早田：イベントと言えば「地域懇談会」も各協議会の大切な行事の一つですね。

檜枝：そうですね。懇談会はまさに協議会の役割そのもの。町会や自治会の関係者、団体関係者などさまざまな人に参加してもらい、地域の課題を議論し合う場です。たとえ答えが出なくても、住民同士が話し合うことに大きな意義があります。



— 委員のやりがい、委員を続ける原動力はどんなところにありますか？

前田：協議会の活動をするようになって、以前は「ただ住んでいるだけ」という感覚だった自分の町がとても好きになりました。委員だから



からこそ地域の情報をたくさん知ることができるのはうれしいですし、もっと知りたいという気持ちも湧いてきます。

檜枝：私は地域と自分の距離がとても近くなったと感じますね。町を歩いていてあいさつする人がものすごく増えました。それから、活動をする中で、思いもなかった自分の新たな一面に出会うこともあり驚きました。何歳になっても人間は成長できるのだな、と気付かされます。

早田：協議会は私自身の大切な居場所の一つです。私は「子どもイベント部」の担当なので育児中の中の子に出会う機会が多いのですが、以前「なみすけ」と触れ合うイベントを開催した時、なみすけを見つめる子どもの目、その子を見守るお母さんお父さんの目を見た瞬間、自身の子育てが突然よみがえってきて、「この子たちのために頑張りたい」と強く感じました。その思いが原動力になっています。地域の子どもの成長を見守れることがすごくうれしいです。



前田：委員をやっていないと出会えない人と出会うことができ、人生の先輩方との活動では学びも多いです。委員の皆さんと社会科見学や飲み会なども行ったのですが、同年代の友達と全く変わらず、とても楽しい時間を過ごしています。

早田：若い人が委員になってくれると、私たち世代にとっても、よい刺激になります。

— さまざまな人が関わる協議会。活動する上で大切にしているのはどんなことですか？

早田：委員のみならず、区が担ってくださる事務局の支えも大きく、さまざまな人の支えがあってこそ協議会です。ですからお互いを思いやり、信頼することは絶対。そのためにはコミュニケーションが何より重要です。

檜枝：委員がそれぞれの持ち味を生かしながら、企業のようなピラミッド型ではなく、フラットな関係性であることを意識して活動すること

が大切です。時には誰かがリーダーシップを取りつつも、みんなで納得しながら、共通の目的に向かって各自適切に動いていく。そのベースとなるのは、やはりコミュニケーションですね。

前田：私は協議会の中でも最年少です。委員の皆さんと活動していると楽しくてつい仲良くなり過ぎてしまうこともあるのですが、人生においても協議会の活動においても先輩である皆さんを尊敬する気持ちを忘れないことを、いつも心掛けています。

— 委員には、どんな人が向いていると思いますか？

前田：むしろ「向いていない人」はいないと思うんですね。地域に少しでも興味があれば、どんな人でも力を発揮できる場だと感じます。若い人もぜひ、もっと手を挙げてほしいです。

早田：苦手なことやできないことは委員同士でカバーし合うのが協議会です。特に参加した当初はできないことも多くて。私も先輩方にたくさん支えてもらいました。それが今、部長をやれているのですから感謝です。少しでも興味があるのなら飛び込んでみて大丈夫。いろいろな人が集まるほうが、活動も充実しますから。

檜枝：協議会は活動エリアが「徒歩圏内より少しだけ広い」と、程よい範囲なのが魅力です。地域活動を始める入門編、最初の一步としては本当に最適。こんなにちょうどいい活動はないと思います。その良さをきちんと発信し、担い手を増やしていくことは今後の大きな課題です。

— 最後に、今後挑戦したいことや皆さんの夢などを教えてください。

檜枝：教員であった立場から、やはり子どもたちの教育、よりよい育ちと

いうものに強い関心があります。地域が持つ「教育の力」というものを、もっと学校に生かせるはず。そのために貢献していきたいと思っています。

前田：私はこれから学校で学ぶ地域福祉の研究を、自分が暮らす地域に役立てていきたいです。杉並の町に思い描くのは、共生社会。人と人が日常的に声を掛け合い、守り合える社会にしていけたらいいなと願っています。

早田：自分が幸せに暮らせる町は、地域の人みんなが幸せでなければ成り立たないもの。人は一人では生きていけないですから。いろいろな人を巻き込みながら、よりよい地域を目指して活動を続けていきたいです。



地域区民センター協議会委員募集については11面参照

YouTubeで配信!

紙面には掲載しきれなかった取材のこぼれ話も動画で紹介しています。

すぎなみビト MOVIE

すぎなみビト「地域区民センター協議会委員」のインタビューが動画でも楽しめます。右2次元コードからご覧いただけます。

杉並区公式チャンネル



地域区民センター協議会委員

プロフィール：左から 早田文子（はやた・ふみこ）阿佐谷地域区民センター協議会「子どもイベント部」部長。結婚を機に杉並区民に。長女の通った小中学校ではPTA活動に尽力し、その後地域区民センター協議会の活動へ。趣味は20年続けているオカリナや鼻笛、コーラスなど。前田總奈実（まえだ・ほなみ）杉並出身、在住。大学でまちづくりを専攻し、地域活動に興味を持ったことで委員に応募。現在は大学を卒業し、専門学校で社会福祉を学びながら協議会の活動をしている。檜枝光太郎（ひえだ・こうたろう）荻窪出身、在住。元立教大学理学部長。退職後、地域の子どものための教育のために役立ちたいと、さまざまな地域活動に参加。荻窪地区の協議会では自身の経験を生かし、子どもたちが科学を楽しむ「さいえんす緑日」を立ち上げた。



阿佐谷地域区民センター協議会

永福和泉地域区民センター協議会

荻窪地域区民センター協議会

早田文子

前田總奈実

檜枝光太郎

地域区民センター協議会とは

よりよい地域づくりを進めるため

区内7地域（井草・西荻・荻窪・阿佐谷・高円寺・高井戸・永福和泉）に設置された各地域区民センターを拠点に活動する任意団体。地域のNPOや企業等の団体と協働し、イベントや講演会等の事業を通して「ふれあいと交流の創出」「地域団体のネットワーク化の推進」「良好なコミュニティの形成」の実現を目指す。

町会・自治会、商店会、民生委員児童委員協議会、PTA等から推薦を受けた人や公募を経た人がボランティアの委員として協議会を支えている。

各地域区民センター協議会の会長の皆さん

写真上段左から、阿佐谷・岩崎泰三/永福和泉・小林聖造/高井戸・鈴木孝行/西荻・江川武郎
写真下段左から、高円寺・毛塚博/荻窪・檜枝光太郎/井草・馬場敏彦

